名大の歴史をたどる

第13回　名大の寄付建物

名大史ブックレット4＆9
『豊田講堂と古川図書館ー名古屋大学の寄付建物ー』
『豊田講堂ー*Toyoda Auditorium*ー』

1. 名大の寄付建物(④pp.4-12)

＊寄付建物：
「明確な設計理念に基づいて設計されているものが多く、その個性的なデザインによって大学の歴史が表され、キャンパスや大学の雰囲気まで影響を受けている・・・」

＊豊田講堂：1960年、槇文彦設計
＊古川図書館：1964年、谷口吉郎設計
↑
「日本建築のモダニズムの成熟期」の建物

2. 名帝大創設時の「約束」(⑨)

＊名帝大創設と地元の支援（pp.6-12）：
①設置（誘致）運動（pp.6-7） 実現
②創設費負担（p.7） 実現
③敷地の現物寄付（p.8） 実現
④図書館と講堂の現物寄付（p.9） 未実現

3. 豊田講堂の寄付(⑨)

＊講堂の建設を優先（pp.20-21）

＊トヨタ自動車工業（株）への寄付依頼（pp.21-22）

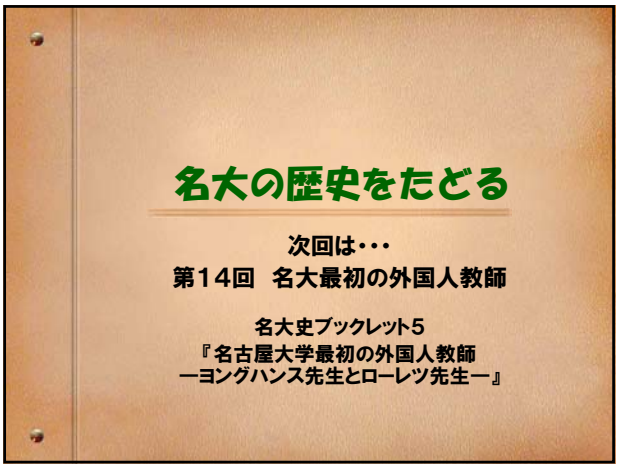
＊建設寄付の承諾（pp.22-23）
↓
名帝大創設時からの「約束」がなかなか実現しない状況にあって、もしトヨタ自動車工業（株）による「約束」の継承がなかったならば、おそらく現在のような東山キャンパス風景は存在しない・・・

4-1. 古川図書館の寄付(④p.11-)

＊附属図書館の歴史：
(1)愛知医学校時代→同窓会図書部の発足
(2)県立医学専門学校時代→校友会図書館の誕生
(3)愛知医科大学時代→図書館の建設
(4)名古屋医科大学時代→附属図書館の成立
(5)名古屋帝国大学時代→図書館・講堂の寄付計画
(6)名古屋大学時代→鶴舞地区から名城地区へ
(7)1964年→東山地区に古川図書館（中央図書館）
(8)1981年→東山地区に新中央図書館

4-2. 古川図書館の寄付(④p.11-)

＊古川図書館寄付のエピソード
①ブックレット（p.13）
②『獅子奮迅』（pp.120-122）より


名大の歴史をたどる
次回は・・・
第１４回　名大最初の外国人教師
名大史ブックレット５
『名古屋大学最初の外国人教師
―ヨングハンス先生とローレツ先生―』